モニタリングシート（現代社会学科）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	学科３ポリシーについての再検討を進める。 学科の学びの特性とカリキュラムに対する１回生の理解を促す取り組みを行う。	全学 DP をふまえて、新たな３ポリシーを策定し、それに基づきカリキュラムの検証を行う。	学科の３ポリシーを、相互に連関するものとして策定し、それと連動した教育課程の実施に向けて、教員間で意識を共有する。 引き続き新カリキュラムに沿って、現社の学びへの理解を促す取り組みを行う。
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果 （入試区分別・高校ランク等）	学科内で各種入試の志願者数の動向といった情報を共有したうえで、入試方法などについて検討を継続している。	延べ志願者の倍率は 5.7（2021）→5.6（2022）→4.1（2023）と推移し、減少傾向にあり対策が必要。今年度３専攻から１専攻に移行するにあたり、新カリキュラムの魅力を訴求できなかった可能性がある。	現社の学びの特長と魅力を、2023 年度より開始された新カリキュラムに即したかたちで広報していく必要がある。 また年内入試の拡大、総合型選抜における複数方式の導入を予定している。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート （第一志望・選択理由・本学への期待等）	新入生アンケートから、幅広い学問領域に興味があるが、学びたい学問領域が必ずしも明確ではない新入生が多いという実態が示唆される。この結果は近年一貫しており、幅広く学びつつ専門性を深めていく現社の特長・教育課程に合致した学生が入学している。	現社の幅広い学びについて早い時期に触れる機会を与えるとともに、学びたい学問領域を明確に意識せずに入学してくる新入生に対して、専門分野の選択を支援する取り組みをさらに進める必要もあろう。	2023 年度より「現社入門Ⅰ・Ⅱ」（1回生前期・4 単位）の授業を、専任教員 23 名によるオムニバス講義に刷新し、早い時期に多様な領域に触れる体制が整った。学生の反応などをふまえて、教育効果・内容を検証し、改善に向けて取り組む。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
4	DP・CP と連関したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	・カリキュラムマップの状況 ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験）	DP 項目「汎用的技能」に必修科目が配置されていないようにみえるが、選択必修科目が設定されており問題ない。その他の DP 項目については、必修・選択科目が適切に配置されている。またカリキュラムは CP をふまえて設計されている。	DP 項目「社会性・自律性」「自立性」について科目の配置が少なく、一見偏りがみられる。ただし、新 DP で両項目は「主体性」項目へと統合され、この点についての改善が見込まれる。	新カリキュラムと新 DP 項目（5 項目）をふまえて、各科目の配置を再点検する。
5	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	・授業アンケート ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） ・最低修業年限卒業率	2022 年度は、92％が 4 年で卒業し、学位プログラムの難度に問題はない。 卒業時アンケート「カリキュラム選択の幅が広い」での満足度が極めて高く（88.1%）、学科のカリキュラムの特長が評価されている。	各種アンケートで専門的な知識の修得度に対する実感がやや低い傾向がみてとれる。これは学際的な学びを重視する現社の特性が反映されたものと考えられるが、多様な学びを保証しつつ、専門的な学びの提供も充実させる必要がある。	2023 年度からの新カリキュラムにおいて、ダブルクラスター制（2 クラスター選択）からコース制（1 コース選択）に変わり、専門領域について、より体系的な学修を行う体制が整った。それにより学びの幅広さと専門性の強化の両立を目指す。
6	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	・ジェネリックスキル測定テスト（3 回生） ・ALCS 学修行動比較調査（修得度） ・卒業時アンケート（修得度） ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況	PROG の結果では DP 各項目の修得度（1→3 回生）に大きな問題はない。 卒業時アンケートで DP 各項目の成長実感について特に低い項目はない。	現時点で大きな課題はない。	引き続き学修成果の到達度について注意してゆく。
7	進路・就職及び免許・資格取得状況。		学科の教育内容を反映して、進路・就職状況の業種・職種はバラエティに富んでいる。 就職決定率は 98.5%（昨年度 97.7%）であり、特に大きな問題はない。	現時点で大きな課題はない。	引き続き、学科内で進路・就職状況に注意してゆき、問題があれば迅速に対応できる体制をとる。
8	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	・各科目の成績分布 ・卒業論文・研究の判定結果	成績分布や卒業論文の判定において大きな問題はなく、適切に評価がなされている。	現時点で大きな課題はない。	特になし。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
9	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率	幅広い領域をカバーする、学科のカリキュラムに基づく教員組織となっている。 専門科目の専任比率は 3 年間で 69％→73％→75％と漸増していて、問題のない水準である。教員組織の女性率は 44.0％（前年度 44.4%）、平均年齢は 54 歳（前年度 53 歳）と、大きな問題はない。	職位構成で教授比率が 68.0%であり、大学の組織編成の基準を上回っている。	教授率について、来年度の新規採用人事 2 件は、いずれも教授の採用を行わない予定であり、低下が見込まれる。
10	学科個別の FD について、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえた FD を実施できているか。	・FD の取り組み状況 ・前年度点検シート ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	学科の学びの特性を 1 回生が十分に理解していないという課題に対して、令和 4 年度は 2 回の FD 研修を実施し、「現代社会入門Ⅰ・Ⅱ」の必修 4 単位をオムニバス講義として実施する授業計画を立てた。	今年度より「現社入門Ⅰ・Ⅱ」を開講し、23 人の教員が自身の専門領域について導入する講義が開始されており、FD での検討を踏まえた教育活動が実行されているが、今後、教育効果の検証が必要である。	各種アンケート、学生の反応、課題の提出状況などを分析し、来年度以降、より効果的な教育活動ができるよう検討・改善を行う。また初年次ゼミで使用するテキストの改訂についても検討をすすめ、今年度中に新カリキュラムに沿ったものを作成する。
11	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力	・各種データ	特になし。	特になし。	特になし。